

科目名称	環境デザインとは I		授業コード	10011012	
担当教員	長濱 伸貴	山之内 誠、小浦 久子、荻原 廣高			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	選択必修・芸術工学基礎(2019年度以降入学生のみ) / 必修(E生)
年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、建築士、インテリアプランナー				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> 環境デザインの構成を概観することにより、学習の全体像のなかで、専門科目や専門分野を位置づける力を養う。</p> <p><到達目標> 専任教員のそれぞれの専門分野に関する講義を通じて、環境デザインという学問分野がどのような広がりを持つものかを理解できる。</p>
授業計画の概要	現代における都市・建築・ランドスケープを中心とするデザインの動向を、優れた事例を通して学ぶことで、この分野のデザインの特色と魅力の理解を図る。
授業計画	第01回 オリエンテーション+神戸風景学(長濱) 第02回 気候・風土と建築デザイン(荻原) 第03回 パッシブデザインとアクティブデザイン(荻原) 第04回 都市計画とまちづくり I(朴) 第05回 都市計画とまちづくり II(朴) 第06回 人の営みの表現力(小浦) 第07回 都市空間の見方(小浦) 第08回 サステイナブルデザイン-歴史都市の変化と持続(小浦) 第09回 日本建築史入門(山之内) 第10回 日本の歴史的な建築と町並みの保存(山之内) 第11回 神戸の歴史的な建築と町並み(山之内) 第12回 庭園のデザイン(長濱) 第13回 公園のデザイン(長濱) 第14回 ランドスケープのデザイン(長濱) 第15回 トークセッション「環境デザインの未来とは」(全員)
実務経験のある教員	都市デザイン、ランドスケープデザイン、建築環境デザインなどの実務経験のある教員陣による実践的な視点からの環境デザイン概論である。
授業時間外学習	都市・建築・ランドスケープに関する書籍や雑誌に親しみ、実際に見学や空間体験することを心がける。
評価方法	各回のレポートの採点を総合して評価を行う。
指導方法	最終回(第15回)において、履修生のアンケートを踏まえた担当教員と学生によるトークセッションを実施することによって、フィードバックを行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	『空間演出-世界の建築・都市デザイン』日本建築学会編井上書院 『地球環境建築のすすめ』日本建築学会編彰国社 『環境デザインへの招待』神戸芸術工科大学編(本学図書館蔵書)
各自準備物	
実習費	
その他	環境デザイン学科生において、この科目の単位習得は、専門科目「必修」の扱い(芸術工学基礎の選択必修にはできない)となるので注意すること。

科目名称	環境デザインとは II		授業コード	10011052	
担当教員	三上 晴久	萬田 隆、畑 友洋、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、建築士				

授業実施方法	対面で行いますが、社会状況に応じてオンデマンド型の遠隔を導入することがあります。詳細は、授業開始までにポータルをとおして、掲示とメール連絡します。
使用するアプリ等	KDU ポータルのクラスプロフィール内に動画の URL が掲示登録されますので、それを視聴してください。あわせて、授業資料が事前に配布されます (Stream 利用)。
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>< 授業の目的 > 環境デザインの学問的な広がりを理解する。 複数の教員が授業を行うので、各教員の専門領域を知る。</p> <p>< 到達目標 > 「近現代建築と建築家、住宅設計のあり方、建築空間構成、建築の表現、建築設計、構造デザイン」などについての知見を獲得できる。</p>
授業計画の概要	近現代の建築とその設計者、住宅の設計、建築空間の構成、建築の表現、建築設計のあり方、構造デザインなど、さまざまな視点から環境デザインに関する講義を展開する。環境デザインのさまざまな事例に触れるが、「環境デザインとは I」と合わせて履修することによって、環境デザインに関する理解をより深めることができる。
授業計画	1：建築空間のデザイン 1 設計のコンテキスト (畑) 2：建築空間のデザイン 2 設計のコンセプト (畑) 3：建築空間のデザイン 3 設計のプロセス (畑) 4：建築の構造について (萬田) 5：建築設計における構造デザイン (萬田) 6：構造デザインの実例 (萬田) 7：表現としての建築その 1：モデル (藤山) 8：表現としての建築その 2：ドローイング (藤山) 9：表現としての建築その 3：言葉 (藤山) 10：近代建築とは、近代建築の巨匠-1 ル・コルビュジエ (三上) 11：近代建築の巨匠-2 ミース・ファン・デル・ローエ (三上) 12：近代建築の巨匠-3 フランク・ロイド・ライド (三上) 13：空間の構成その 1：点・線・面 (川北) 14：空間の構成その 2：空間の限定 (川北) 15：空間の構成その 3：内部と外部 (川北)
実務経験のある教員	すべての担当教員が建築設計の実務経験を有しており、設計者の視点を中心に据えている。
授業時間外学習	日頃から都市や建築に興味を持ち、図書館を活用して多くの情報に触れるようにしてください。また、いろいろなところへ出かけて、実際の都市や建築を体験するようにしてください。
評価方法	授業の終了前に 10 分間程度の時間を確保して、レポートを書いて提出してもらいます。異なる提出方法の場合には、各回担当の教員から別途指示します。各回のレポートを個別に採点し、全レポートの採点を総合して学期末評価をおこないます。
指導方法	随時質問に対して回答します。クラスプロフィールに質問があった場合には、クラスプロフィールを通して回答し、対面授業時に全学生と共有します。
使用テキスト	各回担当教員が提供するオリジナルテキスト
参考テキスト・URL	『建築のかたちと空間をデザインする』フランシス・D.K.・チン彰国社 (第 13-15 回の講義用)
各自準備物	
実習費	
その他	2023 年度は、ユニティ (学園都市駅協の施設) への提供講義科目 (他大学の学生も履修可の講義科目) として開講されます。

科目名称	環境デザイン基礎演習 I		授業コード	10012242	
担当教員	藤山 哲朗	川北 健雄、穂山 憲			
単位数	4	授業形態	演習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル、Stream
履修制限等	E 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 建築デザインに必須の、2次元、3次元表現の基礎技術を修得する。</p> <p><到達目標> 3次元立体空間を2次元に、あるいはスケールを変換して理解・表現できる。 製図・模型制作・コンピュータモデリングの基本的な手法を用いることができる。 上記の技術を適切に用いて一簡単な空間作品を制作できる。</p>
授業計画の概要	<p>環境や建築をデザインするとは、すなわち空間をデザインすることである。この授業は空間を理解・認識し表現する3つの手段、図面・模型・コンピュータモデリングの基礎を習得する。 さらに実際に表現対象を見学することにより、適切なスケール感を身に付け、図面・模型・コンピュータモデリングそれぞれの特性を理解し、2年次からはじまる実習課題に応用することを学ぶ。</p>
授業計画	<p>[図面課題]</p> <p>1：設計図書の種別。「対象建築物」の解説 2：線、記号、文字の表現方法 3：平明図・断面図・立面図の関係理解 4：配置図作成 5：各階平面図作成 6：断面図作成 7：立面図作成</p> <p>[模型課題]</p> <p>8：建築模型の表現手法 9：「対象建築物」を模型により理解、表現する</p> <p>[コンピュータモデリング課題]</p> <p>10：3Dモデリングソフトによる空間表現-① 11：3Dモデリングソフトによる空間-② 12：「対象建築物」を3Dモデリングソフトにより表現する</p> <p>[応用課題]</p> <p>13：「小空間」のデザイン：図面によるスタディ 14：「小空間」のデザイン：模型によるスタディ 15：「小空間」のデザイン：プレゼンテーション講評会</p>
実務経験のある教員	建築家・デザイナーである教員が、実務で用いる設計図書・プレゼンテーションでの経験をふまえ、初学者に基本の核となる技術を教える。
授業時間外学習	課題はステップアップで積み上げる。各週の課題は授業時間後に各自で行う作業を含めて完成する内容となっている。
評価方法	各課題の提出内容と講評会の内容で評価する。図面・模型・コンピュータモデリングの3課題全て提出しないと単位取得できない。
指導方法	図面課題は各課題毎に返却時にコメント。模型・コンピュータ課題は最後に発表会を行い講評する。
使用テキスト	『徹底解説 SketchUp』阿部秀之著 エスクナレッジ
参考テキスト・URL	
各自準備物	製図用具一式
実習費	必要な用具リスト・価格はオリエンテーションで提示。製図用紙、模型材料費は各自負担。
その他	集中講義で実施

科目名称	環境デザイン基礎演習Ⅱ		授業コード	20019081	
担当教員	山之内 誠				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル、Stream 及び Teams
履修制限等	E 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 環境デザインを行うときに、建築とその周辺環境の情報を読み取り、適切に他者に伝える表現にまとめることは、デザイン根拠の明確化につながるため重要である。このため本授業では、建築とその周辺環境の情報の読み取り方法を理解し、さらに読み取った内容を的確にまとめて他者に伝えるための基本的な手法を身につける。</p> <p><到達目標> 身の回りの環境に関する情報を、実際の建築や町並みをはじめ、地図や地誌類などのさまざまな資料から読み取る方法を知る。 身の回りの環境に関する情報を、他者に伝えるための基礎的な手法を修得する。</p>
授業計画の概要	建物を写真や実測図により記録する方法、地図の種類とその読み取り方、地図を活用した情報伝達手法、地誌類をはじめとした資料による地域情報の読み取り方などについて、演習形式で学習する。
授業計画	<p>初回ガイダンスを除き、各回2コマ連続で隔週開講とする。 (全回とも、山之内・山崎の2名で担当)</p> <p>1：全体ガイダンス 2・3：建築を記録する（1）画像等で記録する 4・5：建築を記録する（2）図面等で記録する 6・7：都市を読み解く（1）地図で調査する 8・9：都市を読み解く（2）地図を分析する 10・11：空間をデザインする（1） 自然素材を活かす 12・13：課題の講評 前回までの全課題を振り返り、留意点等を再確認する 14・15：作品事例から学ぶ 先人たちの作品事例の見学を通して、多様な作品表現方法を学ぶ</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業で学んだ事項をよく復習して理解しておくとともに、出題した課題を締め切りまでに仕上げ提出すること。
評価方法	各回の授業で課す課題の合計点で評価する。また、原則として出席が半数に満たない場合はE評価となる。
指導方法	課題返却時に個別にコメントし、別途12・13コマ目の授業において総評を伝える。
使用テキスト	毎回の授業で配布するオリジナルのプリントを用いる。
参考テキスト・URL	適宜指示
各自準備物	デジタルカメラ（携帯電話に内蔵されているものも可）
実習費	
その他	

科目名称	建物のしくみ		授業コード	20012232	
担当教員	萬田 隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	必修(2018 生以降) ／選択(2017 年度生 以前)
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p><授業の目的> 建築を学習するにあたり、最も基礎的事項である建築構法を理解することにより、設計実習や構造力学など建築の専門授業のベースとなる知識を身につける。</p> <p><到達目標> ・ 建築の構造種別、架構形式の説明ができる。 ・ 木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建物について、その特徴を説明できる。 ・ 木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建物について、各部位の名称や施工方法の説明ができる。</p>
授業計画の概要	建築設計を学ぶにあたり、最も基礎的事項となる「建物のしくみ」(建築構法)について学習する。主に建物の骨となる「躯体」について、その考え方や形式および施工方法について学習し、建築に関する基礎的知識を習得する。
授業計画	1：建物にはたらく力と構造計画（講義の概要、建物にはたらく荷重等） 2：建物にはたらく力と構造計画（構造種別、架構形式、建築材料の特徴等） 3：木構造（概要、構造形式・材料の特徴等） 4：木構造（軸組、床組、小屋組） 5：木構造（在来工法、枠組壁工法等） 6：鉄骨構造（概要、構造形式・材料の特徴等） 7：鉄骨構造（接合方法等） 8：鉄骨構造（各部の詳細） 9：鉄筋コンクリート構造（概要、構造形式・材料の特徴等） 10：鉄筋コンクリート構造（配筋や型枠のおさまり等） 11：鉄筋コンクリート構造（各部の詳細） 12：その他の構造 13：基礎 14：下地と仕上げ 15：まとめ
実務経験のある教員	現役で建築構造設計を行っている教員が、実際の建築の設計例を示しながら講義を行うことで、講義内容の理解度を向上させる。
授業時間外学習	日頃から建築について興味を持ったことを自分で調べてみてください。また、まわりに工事中の建物があれば、どのような仕組みになっているのかを考えながら眺めてみてください。
評価方法	学期末に行うレポート試験で評価する。
指導方法	KDU ポータル・クラスプロフィールにより、授業の質問を受けつけ、返答を行う。
使用テキスト	「やさしい建築一般構造」今村仁美・田中美都学芸出版社
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	CAD 基礎演習 ①②		授業コード	20119090	
担当教員	穂山 憲				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	必修
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	全ての演習を対面形式で行う。
使用するアプリ等	AutoCAD、Sketchup
履修制限等	E 生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	基本設計図書レベルの 2 次元製図を学び、次に 3 次元のオブジェクトを用いた設計の方法を習得する。
授業計画の概要	コンピュータを用いた建築設計やインテリアデザインに必要な、製図、モデリング、プレゼンテーションといった基本的な諸技法を習得すると同時に、CAD を活用する上で必要な諸概念について理解することを目標とする。
授業計画	1：基礎的な概念把握 2：2次元図形の作成と操作1（線分と円、円弧等の作図方法） 3：2次元図形の作成と操作2（図形の編集と処理方法） 4：2次元図形の作成と操作3（画層管理と簡単な平面図作成） 5：2次元図形の作成と操作4（平面図仕上げと寸法線記入） 6：3Dモデリング1（簡単なボリューム操作） 7：3Dモデリング2（壁、床、階段の作成） 8：3Dモデリング3（断面パース等の作成） 9：3Dモデリング4（簡単な住宅課題の作成1、ボリュームの検討） 10：3Dモデリング5（簡単な住宅課題の作成2、平面、立面の表現） 11：中間講評 12：プレゼンテーション1（断面図等の作成） 13：プレゼンテーション2（図面の編集など） 14：プレゼンテーション3（平面図、立面図、断面図の仕上げ） 15：プレゼンテーション4（プレゼンボードの編集）
実務経験のある教員	実務で用いる設計図書やプレゼンテーションにおける経験を踏まえて、基礎的な図面など作成技術を習得する事を目的とする。
授業時間外学習	履修者は、Windows の基本的な操作方法を習得済みであること。また、コンピュータラボにおける各種サーバや周辺機器等の構成について理解しておくこと。そのためには、前期の間にコンピュータラボで行われるいずれかの授業を履修しておくことがのぞましい。
評価方法	授業時間中の課題（30%）と、次週までの提出課題（30%）、および最終提出作品（40%）の合計点で評価する。
指導方法	簡単な住宅課題について演習11回目に中間発表とし、全員がプレゼンテーションを行い講評する。
使用テキスト	『はじめて学ぶ AutoCAD 2023 作図・操作ガイド 2022/LT2021/2020/2019/2018/2017/2016 対応』鈴木孝子著ソーテック社 『徹底解説 SketchUp』阿部秀之著株式会社エクスナレッジ
参考テキスト・URL	
各自準備物	USB フラッシュメモリ（512MB 以上を推奨）
実習費	
その他	定員あり

科目名称	環境デザイン実習 I		授業コード	10012290	
担当教員	川北 健雄	三上 晴久、幡 知也、長濱 伸貴、松下 岳生、赤代 武志、萬田 隆、河内 尚子			
単位数	5	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	E 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 課題制作を通して、建築デザインおよびランドスケープデザインの基礎を学び、設計プロセスおよび図面と模型による設計表現方法の基本を習得する。</p> <p><到達目標> 簡単な公共建築物や、小規模な広場等の基本設計ができるようになる。</p>
授業計画の概要	<p>課題 A では、都心における市民のためのコミュニティ施設の設計を通して、建築デザインの基礎を学ぶとともに、建築設計のプロセスを理解する。</p> <p>課題 B では、都市広場を設計することにより、ランドスケープデザインの基礎を学ぶとともに、ランドスケープを設計するプロセスを理解する。</p>
授業計画	<p>課題 A：小規模公共建築物（建築設計の方法を学ぶ）（川北、三上、萬田、赤代）</p> <p>1：オリエンテーション 2：敷地を読む（敷地模型制作） 3：ヴォリュームで考える（配置図・スタディ模型） 4：機能を考える（平面図・断面図） 5：空間の囲み方・支え方を考える（平面図・断面図） 6：細部を考える（立面図） 7：プレゼンテーション（図面制作・模型制作） 8：講評会</p> <p>課題 B：小規模公共広場（ランドスケープ設計の方法を学ぶ）（長濱、山崎、幡、松下）</p> <p>9：表現と材料を覚える（計画表現・材料） 10：歴史と現況を調べる（対象地の条件分析） 11：活動と仕組を考える（行動分析・空間構成検討） 12：配置と形態を考える（配置図・断面図・植栽計画） 13：細部と材料を考える（図面制作・模型制作） 14：プレゼンテーション（図面制作・模型制作） 15：講評会</p>
実務経験のある教員	すべての担当教員は、建築またはランドスケープの設計事務所での実務経験を有している。この授業では、各専門分野の実務に従事することによって得られた知識と技能を生かした実習指導を行う。
授業時間外学習	毎週の授業を通してコンスタントに作業を進めながら、積極的に各自の制作内容についての指導を仰ぐこと。
評価方法	各課題の提出物を採点し、授業への参加態度、および講評会での発表内容を加味して評価する。課題 A、課題 B のいずれについても、最終提出物が期限内に提出されない場合には、原則として単位取得ができなくなるので、締切についてはくれぐれも厳守すること。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> 各課題の最終講評会において、評価できる点やさらに学習すべき点等を指摘する。 優秀作品は学科内で展示する。また、学科の作品集 PRAXIS に掲載する。
使用テキスト	<p>課題 A：『初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ』 川北健雄・花田佳明・三上晴久・倉知徹・水島あかね編著 彰国社</p> <p>課題 B：『図解 パブリックスペースのつくり方 -設計プロセス・ディテール・使いこなし』 忽那裕樹・平賀達也・熊谷玄・長濱伸貴・篠沢健太 編著 学芸出版社</p> <p>その他の参考図書については、実習時に適宜指示する。</p>
参考テキスト・URL	<p>『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会丸善</p> <p>『建築設計資料集成（総合編）』日本建築学会丸善</p> <p>『建築のかたちと空間をデザインする』フランス・D.K.・チン 彰国社</p>
各自準備物	スケッチブック（クロッキー帳）、製図用具、製図用紙、模型材料、ノートパソコン（可能な場合）など
実習費	徴収しない。敷地見学時の交通費は自己負担。
その他	

科目名称	環境デザイン実習Ⅱ		授業コード	20012300	
担当教員	畑 友洋	山之内 誠、吉井 歳晴、赤代 武志、萬田 隆、根津 昌彦、荻原 廣高、橋本 健史、三上 晴久、担当未定（教員）			
単位数	5	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル、Stream、Teams。
履修制限等	E 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 多様な対象についてのデザイン力を獲得し、それを図面や模型で表現、伝達する方法と技術を身につける。</p> <p><到達目標> 小規模住宅の基本設計や、まちとの関係を考えた建物の改修提案ができるようになる。</p>
授業計画の概要	<p>課題Aでは、小規模住宅の設計を通して、その建築計画の基礎と合理的に形態や材料、構造などを判断するデザイン力を養う。</p> <p>課題Bでは、まちの一定範囲を対象として、地域の社会的課題の解決につながるような、複数の建物と周辺空間のリノベーションを提案し、その図面や模型による表現方法を学ぶ。</p> <p>課題Cでは即日設計を行い、短時間でデザインコンセプトを定め、設計案を提示する力を養う。</p>
授業計画	<p>課題A：住宅（畑、吉井、萬田、荻原、橋本、三上） 住居のあり方と、規模の小さい建物を細かくデザインする 1：住居の建築計画、建築材料 2：設計課題：平面図、配置図 3：設計課題：断面図、小規模空間の構造計画 4：設計課題：断面図、立面図 5：設計課題：図面作成、基本計画 6：設計課題：図面作成、模型制作 7：設計課題：プレゼンテーション、講評会</p> <p>課題B：まちのリノベーション（山之内、赤代、根津、山崎） まちと建物の関係に留意しながら、リノベーションによりまちをデザインする 8：課題説明：課題内容と対象エリアについて、敷地サーベイ 9：企画提案：対象エリアの分析、リノベーション構想の作成 10：基本計画：全体計画、模型制作 11：基本計画：各種計画図のとりまとめ、中間講評会 12：空間設計：配置図、平面図、断面図、立面図 13：空間設計：模型制作、プレゼンテーション 14：最終講評会 15：総合レビュー</p>
実務経験のある教員	課題ごとに建築設計の実務経験を持つ教員を配置し、実践的な設計手法に基づいた指導を行う。
授業時間外学習	実習中に受けたアドバイスをもとに、次回までにエスキス（スケッチ、図面、模型等）を作成すること。階段や廊下の幅、テーブルの高さ、椅子の大きさなど、住宅に関して身近なものの寸法を随時計測しておく。
評価方法	各課題の提出物と講評会での発表内容を採点し、取り組み状況も加味して評価する。すべての提出物が決められた期限内に提出されない場合には単位取得ができなくなるので、締切を厳守すること。
指導方法	前半の基礎課題は返却時にコメント。後半の設計課題は講評会でコメント。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	<p>『建築設計演習基礎編-建築デザインの製図法から簡単な設計まで』武者英二・永瀬克己彰国社</p> <p>『建築のかたちと空間をデザインする』フランスス・D・K・チン著・太田邦夫訳彰国社</p> <p>『リノベーションの教科書』小池・宮部・花田・川北・山之内・森、学芸出版社</p> <p>『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編丸善</p> <p>『建築設計資料集成 [総合編]』日本建築学会編丸善</p>
各自準備物	スケッチブック（クロッキー帳）、製図用具、製図用紙、模型材料など。
実習費	図面や模型の制作にかかる費用や敷地見学時の交通費は自己負担。
その他	

科目名称	環境デザイン実習Ⅲ		授業コード	10012310	
担当教員	三上 晴久	畑 友洋、山之内 誠、赤松 佳珠子、小浦 久子、萬田 隆、西井 洋介、安部 秀司、牧野 雅一、原田 雄次、荻原 廣高、橋本 健史、担当未定（教員）			
単位数	5	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	3	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー、建築士				

授業実施方法	対面
使用するアプリ等	KDU ポータル、Stream、Teams。
履修制限等	E 生限定
授業の目的と到達目標（学習成果）	<p><授業の目的> 規模が大きい複合型の施設を設計するための建築計画に基づく合理的な形態や材料、構造などを判断するデザイン力を獲得し、それを図面や模型で表現、伝達する方法と技術を身につける。</p> <p><到達目標> 複合型施設の建築計画のあり方を理解することができる。 新しい都市居住に関して造詣を深めることができる。 共同で設計にあたる能力を身につけることができる。</p>
授業計画の概要	<p>課題 A では図書館・美術館などの公共施設の設計を行い、特種建築物としての建築計画の理解を深めるとともに、地域に根ざし地域に開かれた施設のあり方を提案する。</p> <p>課題 B では、都市居住の新たな意味やあり方を考え、都市複合施設をデザインする。</p> <p>課題 C では即日設計を行い、短時間でデザインをまとめる力を養う。</p>
授業計画	<p>以下が、想定される全 15 回の授業だが、具体的な課題内容が変わって修正が加えられることがある。</p> <p>課題 A：公共施設（畑、山之内、赤松、西井、橋本）</p> <p>1：課題説明および課題条件分析、敷地サーベイ 2：情報施設の建築計画、配置計画 3：基準平面、事例分析 4：構造計画、各階平面図作成 5：配置図作成、断面図・立面図作成 6：詳細図の作成、プレゼンテーション模型作成 7：プレゼンテーション図面作成、講評会</p> <p>課題 B：都市複合施設（三上、小浦、畑、牧野、原田、安部）</p> <p>8：課題説明および課題条件分析、敷地サーベイ 9：都市居住を考える 対象地と建物プログラムの決定、配置図 10：各階平面図、構造計画 11：断面図・立面図、中間講評会 12：設計案の修正 13：プレゼンテーション模型・プレゼンテーション図面作成 14：プレゼンテーション模型・図面、最終講評会</p> <p>課題 C：短期設計</p> <p>15：プレゼンテーション図面作成、講評会</p>
実務経験のある教員	すべての担当教員は建築設計または都市開発の実務経験を有しており、実践的な実習教育を展開する。
授業時間外学習	日頃から都市や建築に興味を持ち、図書館を活用して多くの情報に触れるようにしてください。いろいろなところへ出かけて、実際の都市や建築を体験するようにして下さい。
評価方法	各課題の提出内容と、講評会での発表内容を採点して評価する。 最終提出物が決められた期限内に提出されない場合には単位取得ができなくなるので、締切を厳守すること。
指導方法	各課題の最終講評会において、評価できる点や学習するべき点などを伝える。 優秀作品は学科棟内に展示し、学科が独自に作成している作品集「PRAXIS」に掲載する。
使用テキスト	授業時に配布するオリジナル・テキスト
参考テキスト・URL	『建築設計演習基礎編-建築デザインの製図法から簡単な設計まで』武者英二・永瀬克己彰国社 『建築のかたちと空間をデザインする』フランシス・D・K・チン著・太田邦夫訳彰国社 『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編丸善 『建築設計資料集成 [総合編]』日本建築学会編丸善
各自準備物	
実習費	制作費は各自負担。
その他	

科目名称	環境デザインプロジェクトA		授業コード	20012431	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面 課題によっては、遠隔を組み合わせることもある
使用するアプリ等	課題ごとに担当教員が指定する。
履修制限等	E生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学習成果）	<授業の目的> 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。 <到達目標> プロジェクトを通じて課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる。 社会的実践への構想力を広げることができるようになる。
授業計画の概要	環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めるため、卒業研究に加えて本演習を必修とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に実施し、プロジェクト成果をプレゼンテーションする。 履修者は提供する複数の課題の中から1つを選択し、必修科目の「環境デザインプロジェクトA」とする。 なお、演習課題の選択にあたっては、履修者の所属ゼミ教員が担当する演習課題とは別の課題を選ぶこともできる。環境デザインにおける専門性は有機的に連関し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。
授業計画	年度初めの4年生ガイダンスの際に、演習課題ごとの内容・日程を公表する。演習課題として、実際に進行中のプロジェクトや公開コンペへの参加、ワークショップ等、特色のある課題を複数提供する。関心に応じて演習課題を選択し、実践的に取り組むプログラムである。
実務経験のある教員	環境デザインに関わる専門性を求めるプロジェクト型の課題であることから、建築・都市・ランドスケープ分野におけるデザインやプランニングの実務経験にもとづき、実践的に指導する。
授業時間外学習	各自「卒業研究」との関連性を考えて、演習内容を「卒業研究」に活かせるように、主体的に取り組むこと。
評価方法	演習課題への取り組み状況および最終提出作品の成果を評価する。
指導方法	演習課題ごとに、講評会等を適宜実施し、成果に対する講評を行う。
使用テキスト	演習課題ごとに適宜指示する。
参考テキスト・URL	演習課題ごとに適宜指示する。
各自準備物	演習課題ごとに適宜指示する。
実習費	演習課題ごとに適宜指示する。ただし、学外演習・作品制作にかかる交通費・材料費については各自負担を原則とする。
その他	環境デザイン学科の卒業研究ゼミに配属されたものだけが履修できる。なお、演習の性格上、各演習課題の定員を設けるため、教務課での履修登録前に学科内での希望調整を行う。

科目名称	卒業研究 (E)		授業コード	30019991	
担当教員	萬田 隆	山之内 誠、長濱 伸貴、小浦 久子、畑 友洋、荻原 廣高、三上 晴久、川北 健雄、藤山 哲朗			
単位数	10	授業形態	実習	科目分類	必修
年次	4	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面 (状況に応じて遠隔(リアルタイム)を行うこともある)
使用するアプリ等	(遠隔の場合は、KDU ポータル、Teams、Stream など)
履修制限等	E 生限定、「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<p>< 授業の目的 > 卒業研究では、卒業論文及び卒業制作に取り組むことを通して、現代社会における環境デザインの課題を自らの力で発見・設定し、それらの課題について分析と考察を行い、論理的思考に基づき構想し、解決方法の提案を展開する。</p> <p>< 到達目標 > こうしたリサーチとデザインをまとめるなかで、研究およびデザイン提案を文章や図面・模型等を用いて的確に表現できる力を修得する。</p>
授業計画の概要	<p>卒業研究では「卒業論文」と「卒業制作」を行う。卒業論文では、論文を組み立てる論理的思考と合理的研究方法を修得する。卒業制作では、現代の都市や社会への問題意識に基づき環境デザインとしての提案を表現することを学ぶ。</p> <p>卒業研究は、学生が指導教員を選び、そのゼミ指導のもとで進める。卒業論文と卒業制作とは、基本的には独立しているが、両方のテーマに関連性を持たせて取り組むことも可能である。</p> <p>なお、卒業論文・卒業制作は、個人で行うことを基本とするが、共同で行うことが望ましいと思われる明確な理由がある場合には、共同で行うことも認められる。共同の場合は、予め申告して承認を得ること。論文・制作とも、それぞれの役割・分担を明確にすること。</p>
授業計画	<p>< 日程 > 4 年次 4 月上旬 卒業研究ガイダンス 5 月中旬 卒業論文テーマ申告 6 月中旬 卒業論文中間発表会 8 月上旬 卒業論文事前審査会 10 月上旬 卒業論文提出・発表会、 10 月中旬 卒業制作テーマ申告 11 月上旬 卒業制作構想発表会 12 月下旬 卒業制作事前審査会 1 月下旬 卒業制作提出・最終審査会、卒業制作選抜講評会 2 月上旬 卒業論文及び制作の展覧会 (卒展)</p>
実務経験のある教員	環境デザインに関連する多様な専門分野で実務経験のある多数の教員により、デザインやプランニングにおける実践的な指導を行う。
授業時間外学習	「卒業研究」は、大学で学んだことの集大成である。その基礎となる 3 年次までの学習内容を、しっかりと身につけておくこと。
評価方法	卒業論文は主査 1 名と副査 2 名による査読を行なう。この査読で一定以上の評価を得た論文については、別途、卒業論文審査委員会にて優秀論文の選定を行う。卒業制作は発表展示により、全教員が審査する。なお、卒業論文、卒業制作のいずれについても、最終提出物が期限内に提出されない場合には、原則として単位取得ができなくなるので、締切を厳守すること。
指導方法	
使用テキスト	特に指定しない。参考図書等については、各所属ゼミの教員の指導を仰ぐこと。
参考テキスト・URL	
各自準備物	
実習費	
その他	3 年次修了時点で卒業要件単位として認められる単位数の合計が 90 単位以上であることが、卒業研究の着手条件であり、単位がそれに満たない場合は履修できない。それぞれの発表会及び提出期日は厳守のこと。日程は変更される場合がある。掲示・メール等による連絡を常に確認のこと。最優秀の卒業論文または卒業制作に学長賞を授与する。学長賞に次いで優秀な卒業論文・卒業制作には環境デザイン賞を授与する。